



愛犬の熱中症に関するアンケート2019

「熱中症ゼロへ」プロジェクト

2019年7月

「熱中症ゼロへ」プロジェクト

一般財団法人 日本気象協会（本社：東京都豊島区 理事長：長田 太）
株式会社 ヒモリ（本社：東京都港区 代表取締役社長：近藤彰彦）

愛犬の熱中症に関するアンケート2019

日本気象協会が推進する「熱中症ゼロへ」プロジェクトでは、「愛犬の熱中症に関するアンケート」を実施いたしました。2019年7月に調査を行い、全国を6エリアに分け、飼い主の方336名から回答を得ました。

熱中症に関する飼い主の方の意識や行動を正しく理解し、今後のプロジェクト活動に活かしてまいります。

「熱中症ゼロへ」プロジェクトとは



「熱中症ゼロへ」プロジェクトとは、熱中症にかかる方を減らし、亡くなってしまう方をゼロにすることを目指して、一般財団法人 日本気象協会が推進する活動です。

気象のプロフェッショナルである日本気象協会が発信する正確でタイムリーな気象情報を活かして、熱中症のリスクや対策について広くメディア、イベントなどを通じて啓発をおこないながら、プロジェクトにご賛同いただける行政や民間企業などと連携することで、正しい知識と正しい対策アクションの輪を広め、熱中症で亡くなってしまう方をゼロにすることを目指します。

調査概要

調査方法：インターネットアンケート

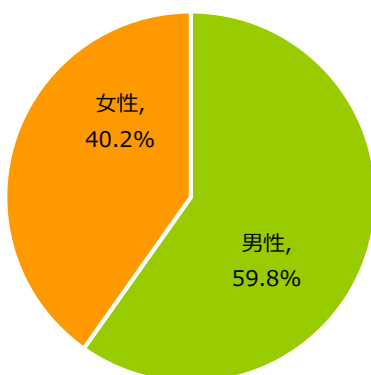
調査対象：全国の犬の飼い主

サンプル数：336名（北海道・東北地方56名／関東地方56名／中部地方56名／近畿地方56名／中国・四国地方56名／九州・沖縄地方56名）

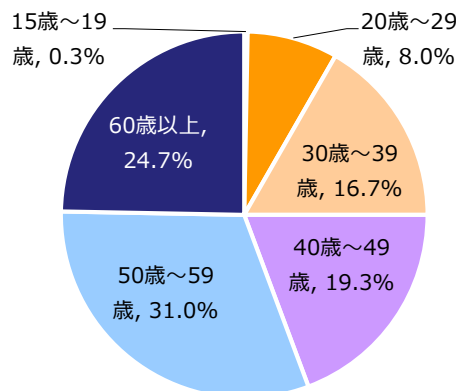
調査時期：2019年7月

※構成比は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100とはならない。

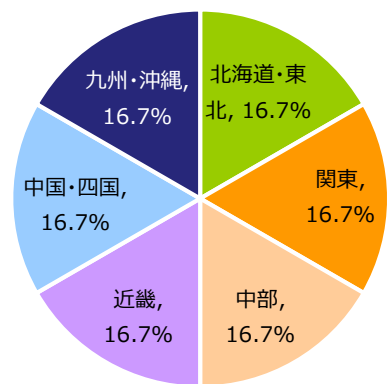
性別（n=336）



年齢（n=336）



居住地域（n=336）



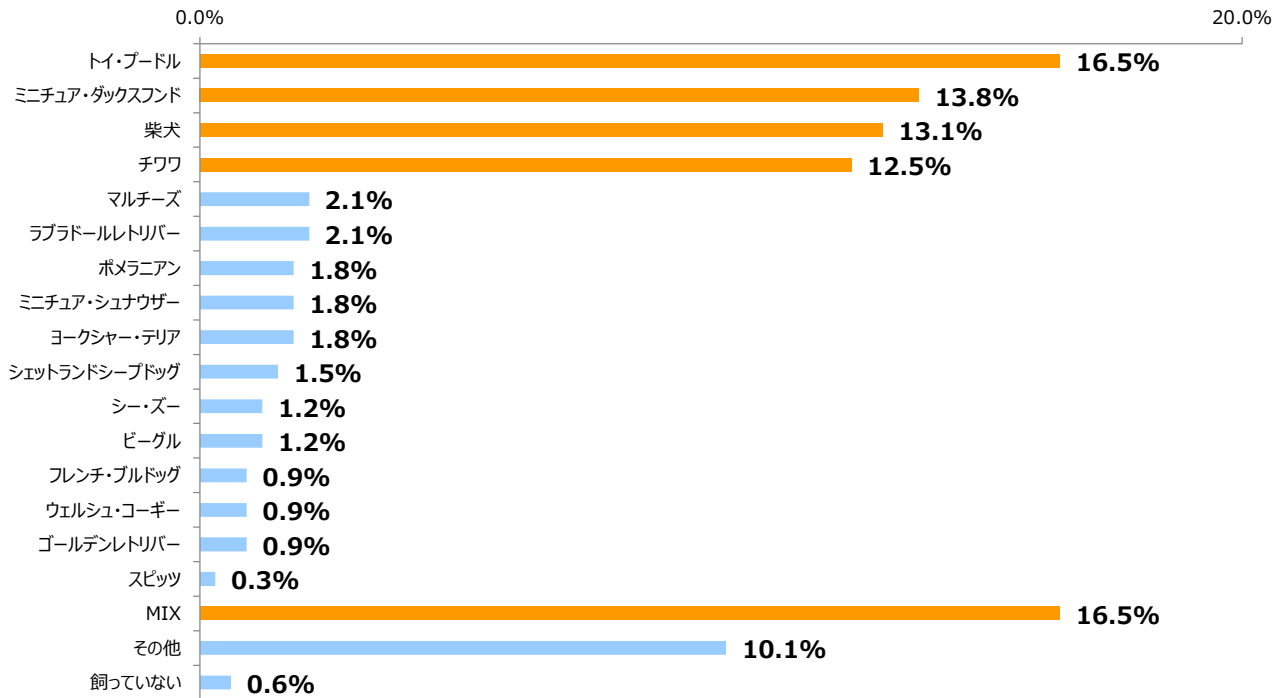
調査結果

■ 多種多様な犬種が飼われているが、「トイプードル」「チワワ」など小型犬が多い傾向あり

飼われている犬種としては「トイ・プードル (16.5%)」や「ミニチュア・ダックスフンド (13.8%)」「チワワ (12.5%)」など小型犬が多くなっていました。「MIX」の回答としては、ダックスフンド×トイプードルやチワワ×ヨークシャーテリア、柴犬×マルチーズなどが挙げられていました。

Q1 あなたが飼っている犬の種類を教えてください。

※多頭飼いの方は、今回のアンケートではその中で「最も長く飼っている犬」についてお答えください。(n=327)

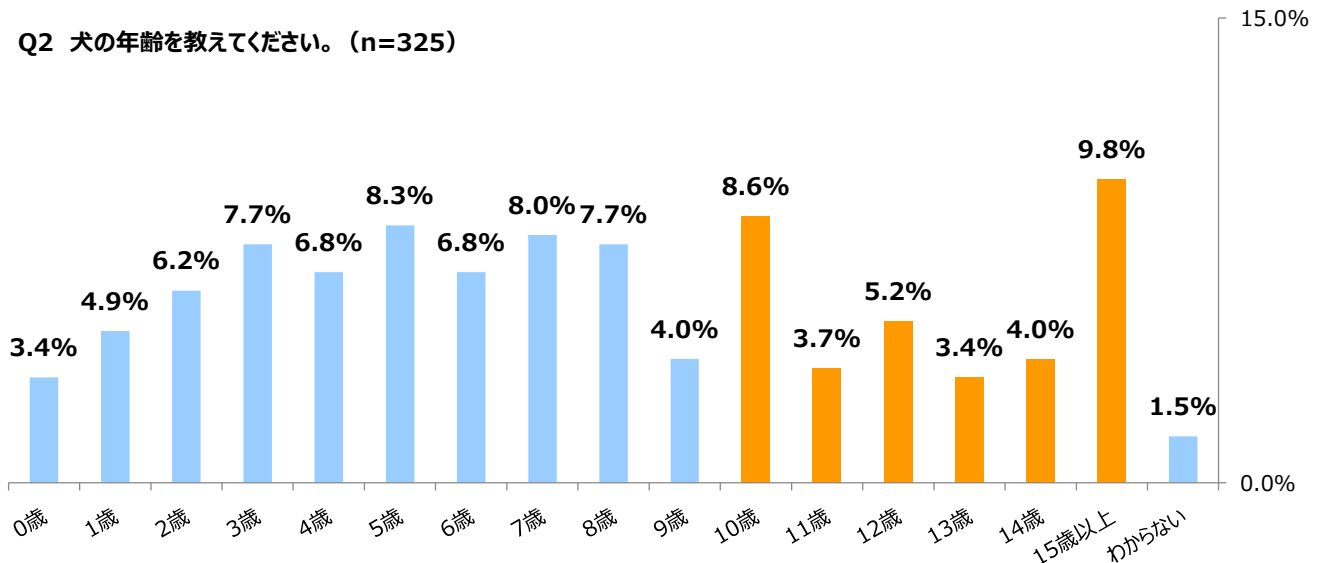


■ 飼われている愛犬の年齢は幅広い。また、10歳以上の高齢な愛犬も多い

アンケート結果より「0歳」～「15歳以上」まで平均的に飼われていることがわかりました。

また、全体でみると「15歳以上 (9.8%)」の割合が少し高く、10歳以上の高齢犬は35%近くを占めていました。

Q2 犬の年齢を教えてください。(n=325)

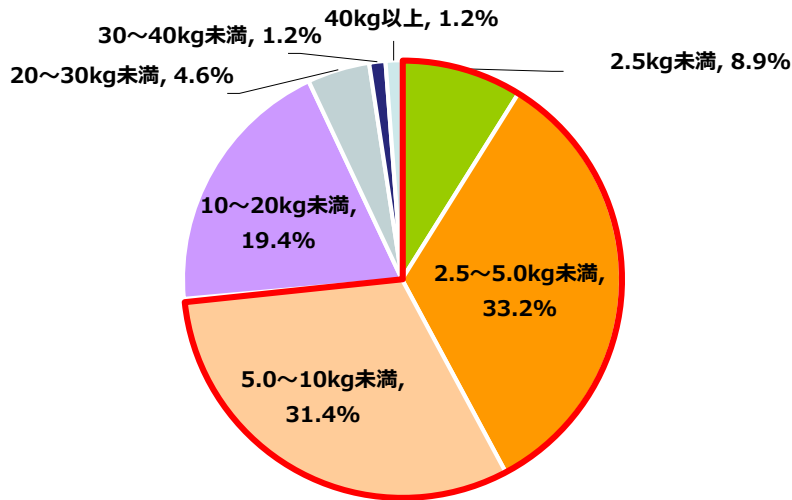


調査結果

■ 体重10kg未満の愛犬の割合が、全体の7割以上となった

犬種の回答で小型犬が多いこともあり、「2.5kg未満 (8.9%)」「2.5～5.0kg未満 (33.2%)」「5.0～10kg未満 (31.4%)」と**体重10kg未満の割合が73.5%**となっていました。一方、10kgを超える中型・大型の犬は全体の26.4%と3割以下となっており、10kg未満の犬と比べると少ないことがわかります。

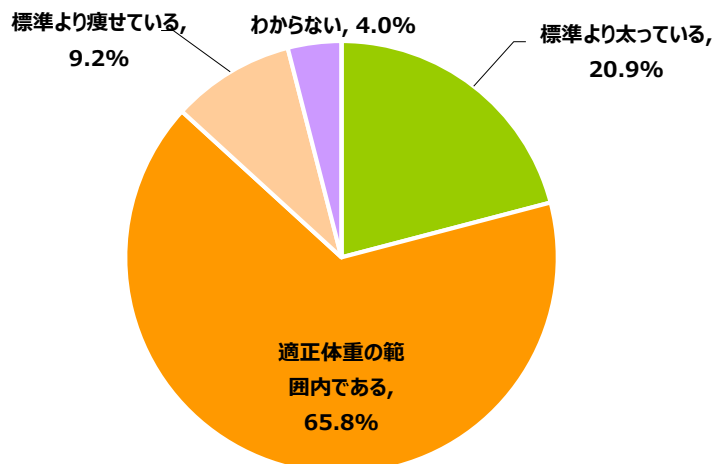
Q3 犬の体重を教えてください。(n=325)



■ 6割以上の愛犬が適正体重の範囲内であった

「**適正体重の範囲内である (65.8%)**」が最も多いことがわかりました。また、「標準よりも痩せている (9.2%)」と「標準よりも太っている (20.9%)」では標準よりも太っている割合の方が11.7%ほど高く、倍近い差があることがわかります。

Q4 犬の肥満度を教えてください。(n=325)



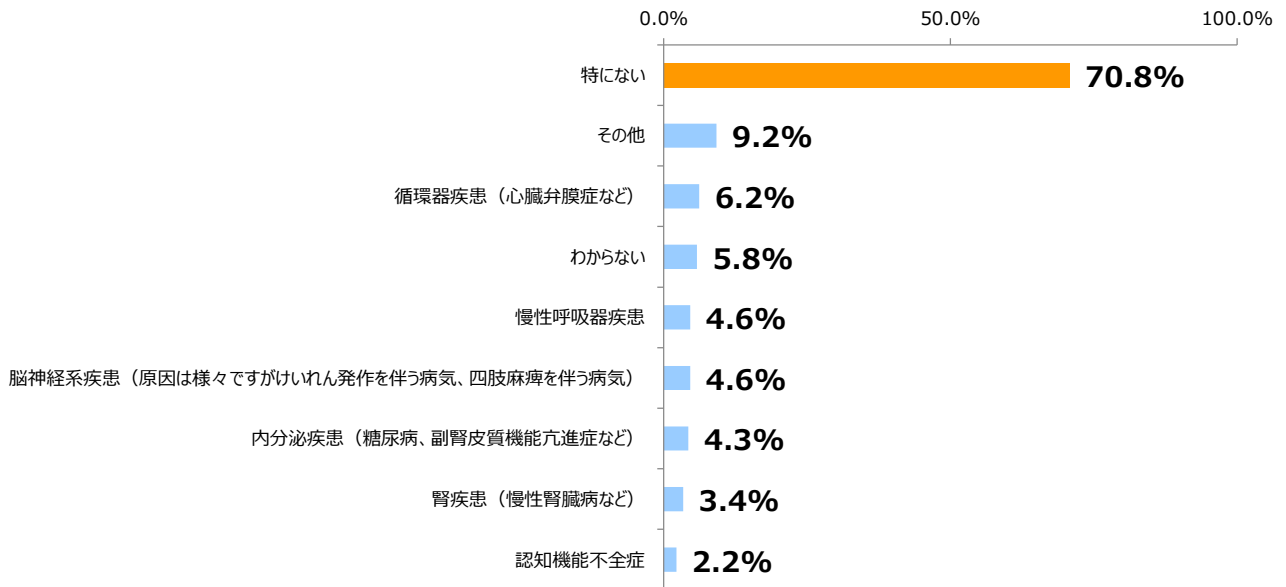
調査結果

■ 持病を抱えている愛犬は全体の約3割程度

持病については、「特にない」が70%を超えていて、健康な愛犬が多いことがわかります。

持病があると回答した中では「循環器疾患（心臓弁膜症など）（6.2%）」がもっとも多くなっていました。その他の内訳としては、肝機能障害・皮膚病・アレルギー・結石・腫瘍・眼の病気等でした。

Q5 犬の持病の有無について教えてください。（n=325）

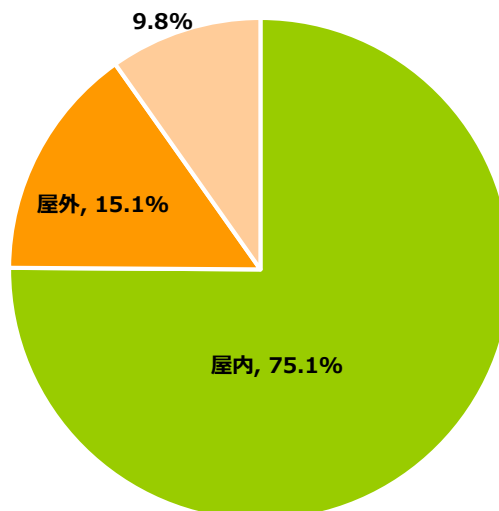


■ 屋内飼育の割合が多い

屋内飼育の割合が多く、「屋内（75.1%）」が全体の約75%に達しています。一方で「屋外（15.1%）」「場合による（屋内・屋外どちらもあり）（9.8%）」を合計しても24.9%と屋外での飼育の割合は少ないことがわかります。

Q6 普段犬を飼っている場所を教えてください。（n=325）

場合による（屋内・屋外どちらもあり），

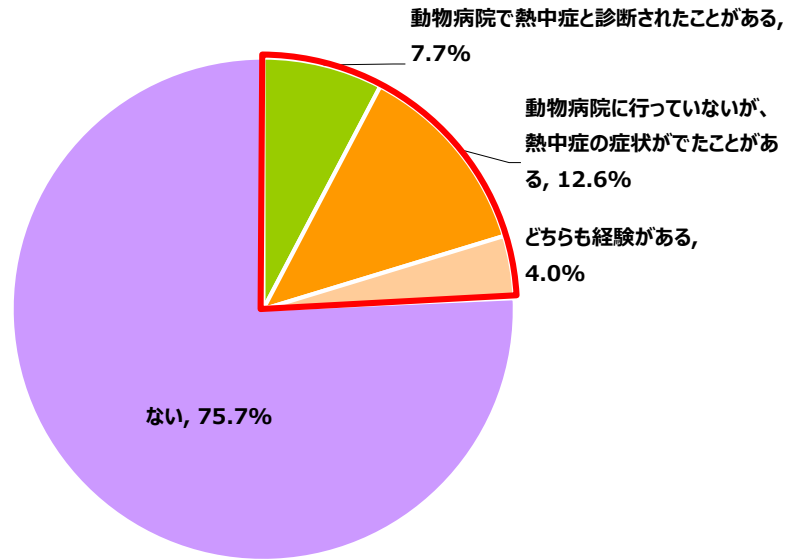


調査結果

■ 愛犬の4分の1が熱中症経験あり

「動物病院で熱中症と診断されたことがある (7.7%)」「動物病院に行っていないが、熱中症の症状がでたことがある (12.6%)」「どちらも経験がある (4.0%)」を合計すると**24.3%**となり、**全体の4分の1ほどの愛犬が熱中症になったことがある**ことがわかります。

Q7 飼っている犬が熱中症にかかったことはありますか？ (n=325)

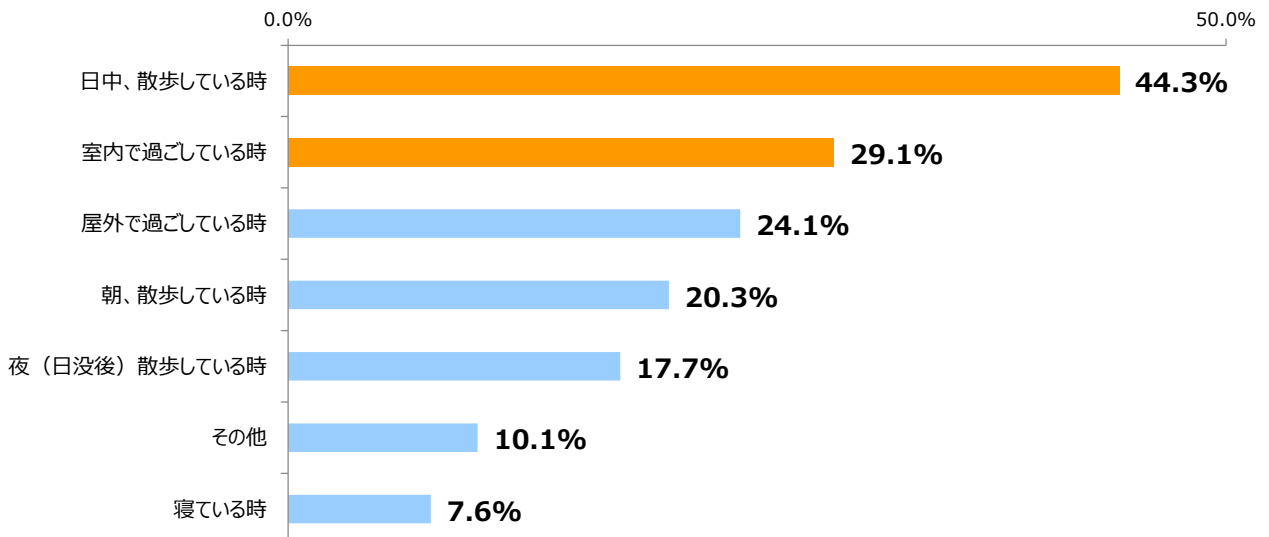


■ もっとも熱中症になりやすいのは日中、散歩している時

「日中、散歩している時 (44.8%)」の発症が一番多く、**全体の半分ほど**となりました。

また、「室内で過ごしている時 (29.1%)」も高いことから室内外ともに熱中症のリスクがあることが読み取れます。

Q8 ※Q7で「熱中症と診断されたことがある」「熱中症の症状がでたことがある」「どちらも経験がある」と答えた方のみ
どのような場面で熱中症にかかりましたか？ (n=79) 複数回答可

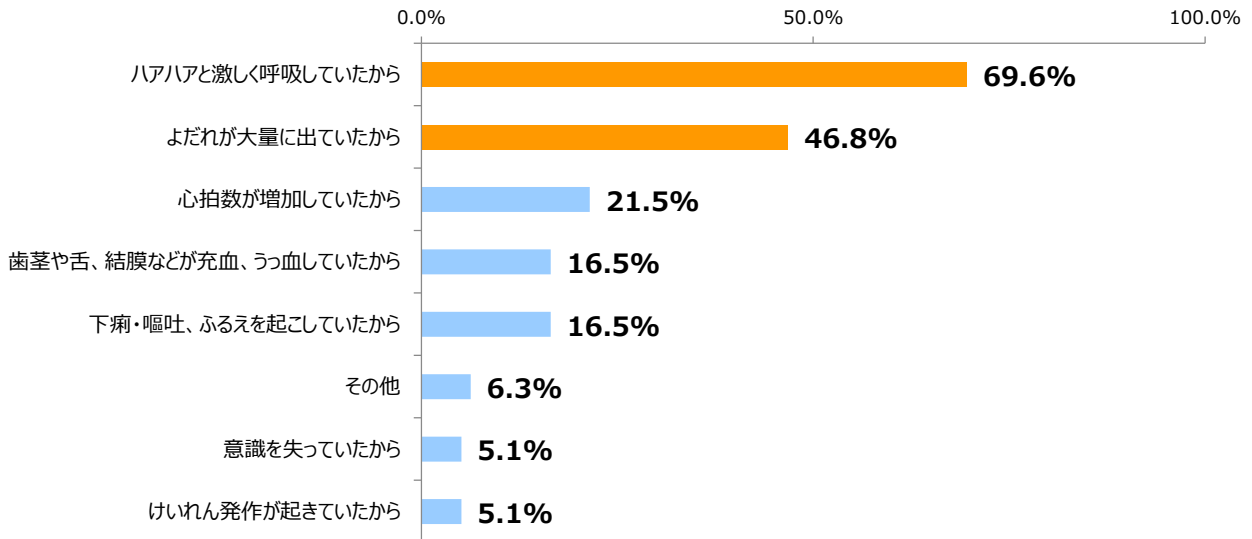


調査結果

■ 激しい呼吸・大量のよだれは熱中症の危険信号

熱中症に気づくときは「ハアハアと激しく呼吸していたから (69.6%)」と「よだれが大量に出ていたから (46.8%)」の2つが主な症状だとわかりました。また、少数ながら「意識を失っていたから (5.1%)」や「けいれん発作が起きていたから (5.1%)」という重篤な症状の回答もあり、症状が悪化する前に応急処置を行う必要があることが読み取れます。

Q9 ※Q7で「熱中症と診断されたことがある」「熱中症の症状がでたことがある」「どちらも経験がある」と答えた方のみ
犬が熱中症にかかっていることは、どのようにして気づきましたか？ (n=79) 複数回答可

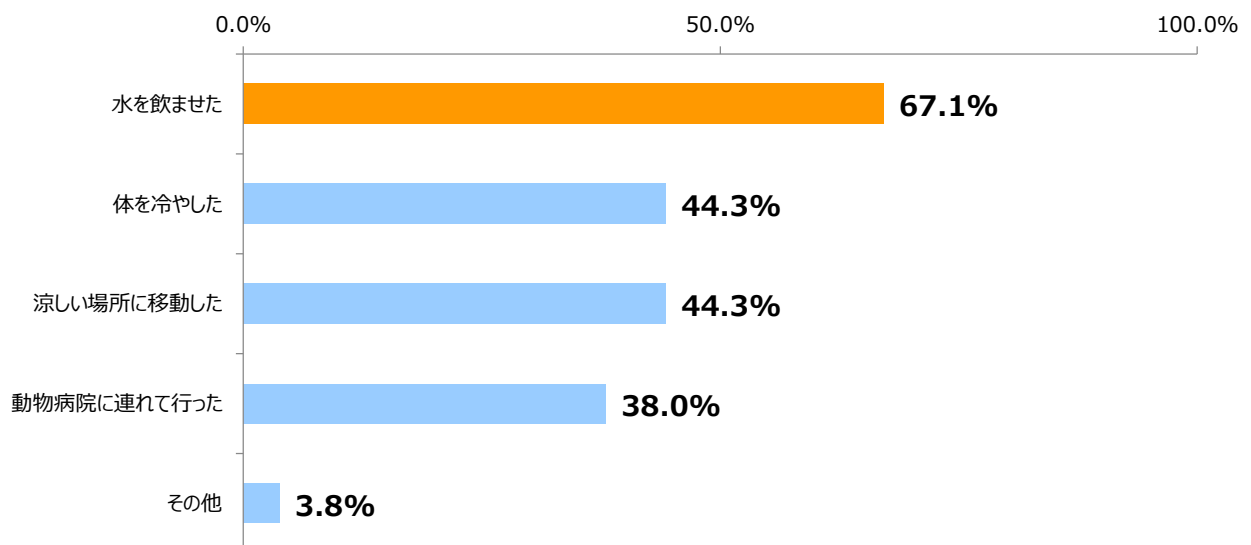


■ 飼い主として対処は「水を飲ませた」という回答が一番多かった

飼い主自らの応急処置としては「水を飲ませた (67.1%)」という給水や「体を冷やした (44.3%)」「涼しい場所に移動した (44.3%)」など暑い場所からの移動・冷却が主な回答となりました。

「動物病院に連れて行った (38.0%)」という回答は、上記給水や冷却と比べると少なくなっていました。

Q10 ※Q7で「熱中症と診断されたことがある」「熱中症の症状がでたことがある」「どちらも経験がある」と答えた方のみ
犬の熱中症に気づいた際、どのように対処しましたか？ (n=79) 複数回答可



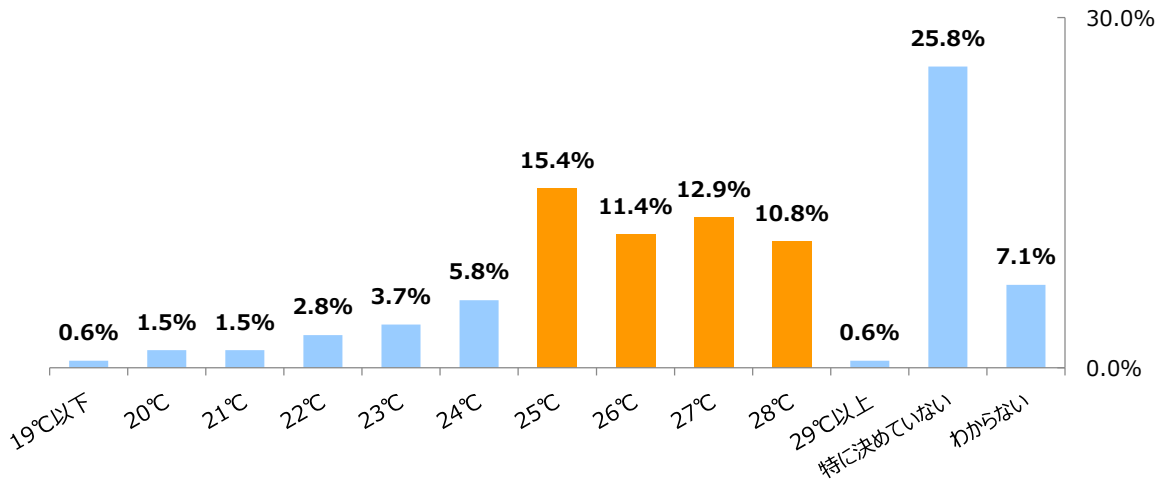
調査結果

■ エアコンの設定温度は、25～28℃が全体の半分を占める

屋内のエアコンの温度は**25～28℃設定が50.5%**を占めています。

中でも「25℃ (15.4%)」の回答が最も多く、愛犬の熱中症対策のためエアコンの設定温度を低めにしている家庭が多くなっています。

Q11 犬が屋内（車内も含む）にいる場合のエアコン設定は、普段何℃にしていますか？（n=325）

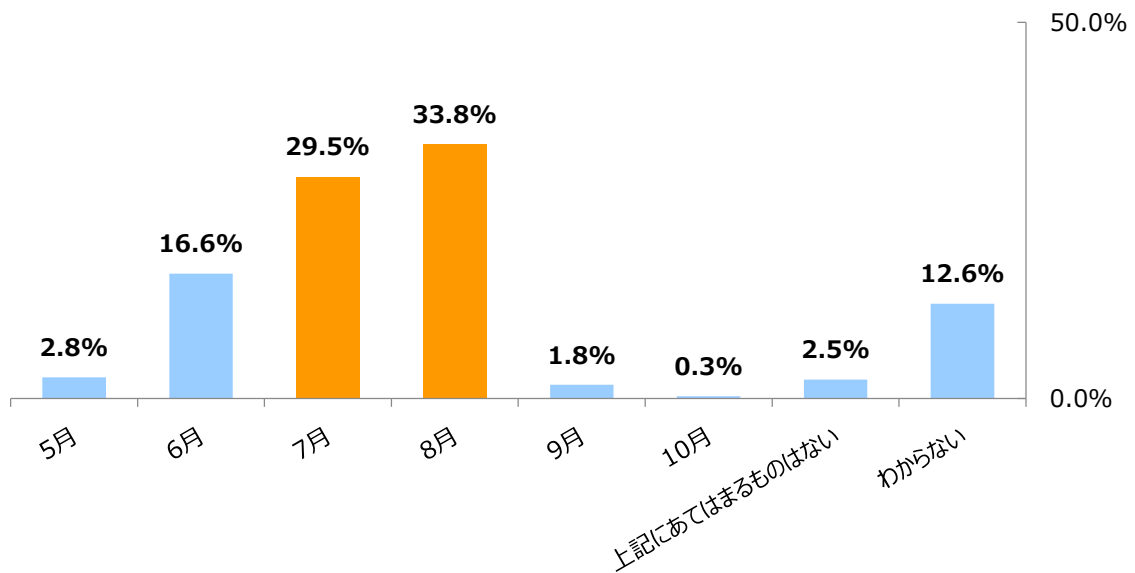


■ 愛犬の熱中症を意識する月は7月と8月が高い

愛犬の熱中症が多いと回答された月は、「**7月 (29.5%)**」「**8月 (33.8%)**」で合計で**60%**を超えました。

次いで回答が多かった「**6月 (16.6%)**」も含めると**全体の80%近く**となり、この3か月の間、愛犬の熱中症について注意するという飼い主の意識が高いことがわかります。

Q12 犬の熱中症が最も多い月はいつだと思いますか？（n=325）

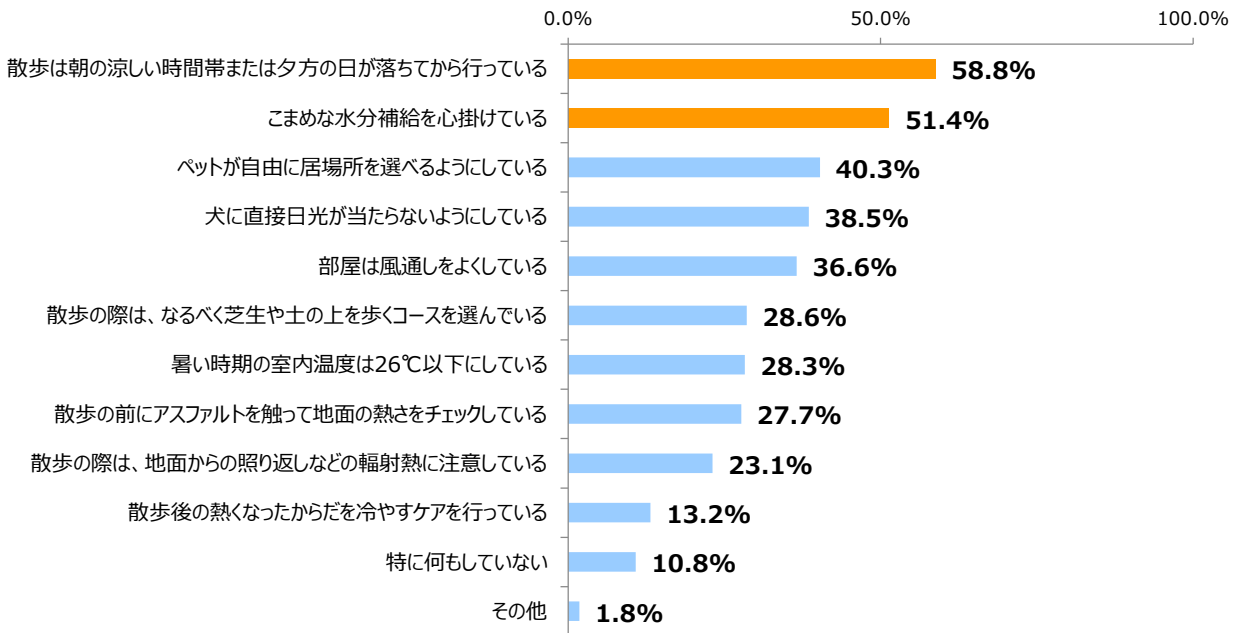


調査結果

■ 日中の散歩を避ける回答が多かった

日中の散歩している時の熱中症を意識して「散歩は朝の涼しい時間帯または夕方の日が落ちてから行っている (58.8%)」が最も多く、次いで「こまめな水分補給を心掛けている (51.4%)」という回答が多くなっていました。また「ペットが自由に居場所を選べるようにしている (40.3%)」や「部屋は風通しをよくしている (36.6%)」など屋内にいるときの熱中症予防についても回答が多かったです。

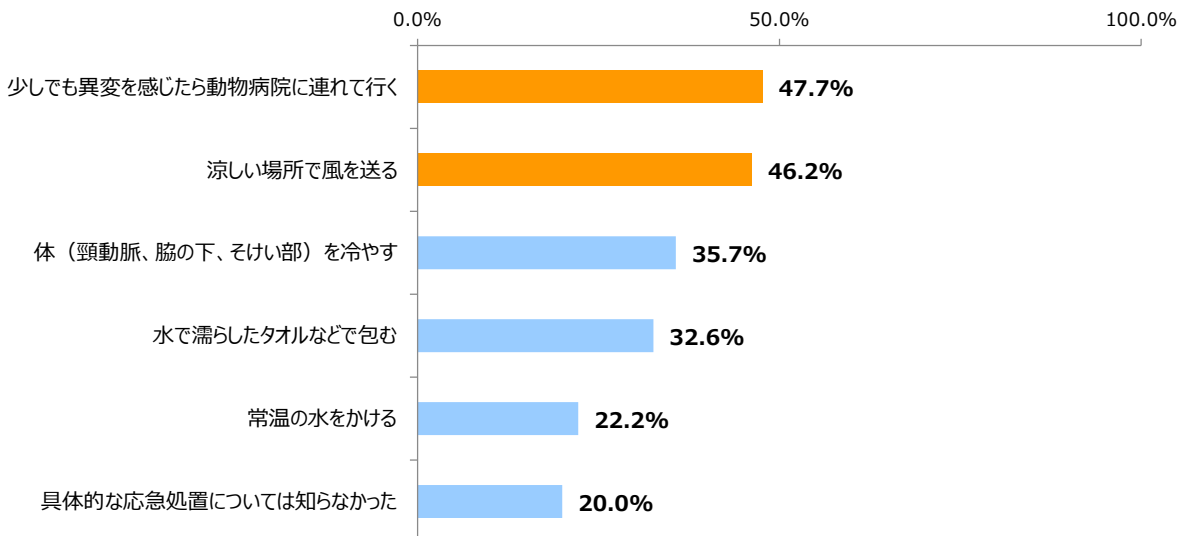
Q13 犬の熱中症を予防するために、あなたが普段行っていることを全て教えてください。(n=325)



■ 愛犬が熱中症にかかった場合の具体的な応急処置を知らない人は5人に1人

最も多い回答の「少しでも異変を感じたら動物病院に連れていく (47.7%)」でも半分に達していません。「具体的な応急処置については知らなかった (20.0%)」という回答も多いことから、愛犬が熱中症にかかった時の応急処置についてより周知の必要があることがわかります。

Q14 以下にあげる、犬が熱中症にかかった場合に必要に応急処置について、あなたが知っていることを全て教えてください。(n=325)



調査結果

■ 愛犬の食欲不振や水分補給について心配をする声が多数

愛犬の体調管理について困っていることは、「食欲不振」や「水分補給を十分できているか心配」という声が多かったです。知りたいこととしては、「適切な室内温度」や「適したエアコンの設定温度」など室内の温度についてや、「散歩の時間」や「高齢犬になったときの目安の距離」など、散歩の距離や時間について大きく2つに分かれる結果となりました。

Q15 夏の間、犬の体調管理について困っていること、知りたいことなどあれば教えてください。

困っていること・知りたいこと

- | | |
|---|---------------------------------|
| ・食欲不振になりがちな点が一番心配 | ・室温は何度くらいが適正なのか
適したエアコンの設定温度 |
| ・しっかり水分補給ができているか気になります | ・水の交換時間（1日1回でOK?） |
| ・夏のエアコンの設定温度 | ・小型犬種高齢犬の適正な散歩時間や目安になる距離など |
| ・風通しのためにあけておいても防犯上よくない
クーラーもコストが気になる | ・病院に行くタイミングがわからない |
| ・様子見て不調なのか判断が難しい | |
| ・老犬なので毎年暑さが心配 | |

■ 飼い主様ご自身の熱中症予防の一番は「こまめに水分を補給する」だった

半分以上の人が「こまめな水分を補給する（80.3%）」「エアコンや扇風機を利用する（58.8%）」と回答しており、熱中症のための予防を行っていることがわかります。「バランスの良い食事を心がける（38.5%）」や「十分な睡眠をとる（38.5%）」「塩分・ミネラルを含む食べ物や飲料を摂取する（31.7%）」など体調管理に関する予防も多く回答がありました。

Q16 飼い主様ご自身の熱中症予防について、行っていることを全て教えてください。（n=325）複数回答可

